

2019年6月13日

美術評論家連盟 御中

東日本電信電話株式会社 広報室

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

### 公開質問状に対するご回答

NTT 東日本の運営する、NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (以下「ICC」)にて開催された「オープン・スペース 2018 イン・トランジション」展(2018年6月2日～2019年3月10日)出品作品、吉開菜央様《Grand Bouquet/いま いちばん美しいあなたたちへ》に関する貴連盟の2019年5月26日付公開質問状(以下「公開質問状」)に対し、以下のとおり回答いたします。

ICCは、1997年の開館以来「コミュニケーションというテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想」することを目指して活動を行ってまいりました。

出品する作品は「従来の枠組みにとらわれない実験的な試みや新しい表現、コミュニケーションの可能性について紹介」という活動理念に基づいた展覧会のテーマ設定を経て学芸員により選定され、作家様と学芸員との協議にもとづいて確定されるものではありませんが、「NTT 東日本の企業イメージの代弁・広報」を求めものではありません。

また、ICCは作家様の出品作品を一人でも多くの方にご覧いただくことに努めております。一方で、来館されるお客さまは、子どもから大人、外国人、障がい者など多様であることを鑑み、これに配慮が求められる場合があります。そのため、作家様との出品交渉の過程で展示が困難であると判断せざるを得ない場合もありますが、原則的に調整をお願いしているということはありません。

吉開様の作品は、「オープン・スペース 2018 イン・トランジション」展の中で展開された、NTTの研究所との連携プロジェクト展示の一環で、研究所の触覚技術を利用した「触覚映画」として、吉開様、研究員、学芸員が連携して取り組んだ、今回の展覧会のための新作です。

制作過程において一部の映像表現に来館される多様なお客さまへの配慮をお願いしたい点があり、吉開様にお伝えしておりました。その背景には、例えばLGBTや障がい者など、多様性の尊重・理解促進に向けた取り組みを推進していることがあり、その一例として、目指す方向が合致している取り組みとなる東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナーであることをお伝えしております。

最終的には吉開様を含む関係者の合意のもと作品公開に至ったと理解しておりましたが、展示終了後に吉開様が表明されたご意見から、制作過程において吉開様と関係者との詳細な検討を行う機会を設定出来ていなかったことや、最終段階において時間的制約のある中、調整をお願いしていたことなど、真にご納得いただけないまま公開を迎えてしまっていたことを認識いたしました。

結果的に吉開様にとって不本意な調整をお願いするかたちになってしまっていたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

今後は、特に新作の場合、作家様、学芸員ならびに関係者が、より連携して意思の疎通を図りながら作品制作にあたるよう環境整備に努めると共に、懸念される事項が発生した場合には、学芸員に加え第三者をアドバイザーにし、ご意見を伺うなど再発防止に努めてまいります。

ICCの活動は、アーティストやエンジニアといった方々の創造や表現に触発されることで、その理念を実現していくものであると考えております。これからもICCが日本におけるメディア・アートと呼ばれる分野で果たすべき役割を深く自覚し、参加いただく作家様や来館されるお客さまとのコミュニケーションをより大切なものにとらえ、「科学技術と芸術分野の対話を促進し、豊かな未来社会を構想」していく所存です。